

<p>28日 (日)</p> <p>ヨハネ 21章</p>	<p>「イエスは言われた。『舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ』(6節)。ペトロたちは漁に出た。復活の主に出会いながらも、戸惑いと疑いをぬぐえずにいた弟子たち。夜通し働いても何の成果なく迎えた朝。岸边から聞きなれた主の声が響いた時、彼らは復活の主の愛を体験する者とされたのだった。</p>
<p>29日 (月)</p> <p>使徒 1章</p>	<p>「彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた」(14節)。復活の主がおられれば百人力！恐いものはない！…と自信満々の弟子たちだったが、イエスが昇天されて、「何もできない非力な自分たち」だけが残された時、彼らは祈るために集った。教会の原点がここにある。</p>
<p>30日 (火)</p> <p>使徒 2章</p>	<p>「わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を語る」(17節)。「預言」とは、今日、この世界に向けて語りかけておられる愛の神の言葉を聴きとること。愛の神が注ぐ聖霊を受ける時、困難あふれる世界の中であってなお、若者も老人も共に幻と夢を語る者とされていく。</p>
<p>31日 (水)</p> <p>使徒 3章</p>	<p>「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」(6節)。今日、わたしは何の力で立ち上がり歩くのか。体の疲れ、心を覆う悲しみや痛みからわたしを起こしてくれるものは何か。聖書を貫いて届けられる、主の愛のまなざしと語りかけを受けていこう。</p>

聖書日課 『からし種』 2018.10.28～11.4

<p>11月1日 (木)</p> <p>使徒 4章</p>	<p>「しかし、ペトロとヨハネは答えた。『神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください』(19 節)。数か月前、主イエスを三度「知らない」と口にし、涙に崩れた男が、人びとの前に堂々と神に従う信仰を証ししている。彼らを強め、励ましている主イエスのまなざしの中に、立たせてください。</p>
<p>2日 (金)</p> <p>使徒 5章</p>	<p>「夜中に天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、『行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい』と言った」(19-20 節)。弟子たちに託された「命の言葉」を語る使命。私たちを養い、照らし、時に厳しく私たちの歪みを正す「命の言葉」。大井教会を今日、その大切な使命に立たせてください。</p>
<p>3日 (土)</p> <p>使徒 6章</p>	<p>「最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた」(15 節)。聖霊により恵みと力に満ちて語るステファノを憎悪した人々が、偽証人を立てて彼を襲って捕え、裁判の席に引いていった。が、どんな策謀も暴力も、闇の力も、聖霊の臨在の輝きを覆うことはできない。</p>
<p>4日 (日)</p> <p>使徒 7章</p>	<p>「ステファノは主に呼びかけて、『主イエスよ、わたしの霊をお受けください』と言った」(59 節)。力に支配される恐怖の中にあるユダヤ人たちにとって、力強く、十字架にかかったキリストの福音を語るステファノの存在は邪魔であっただろう。人を揺さぶるほどの影響力のあるキリストの平和に生きる者とされたい。</p>